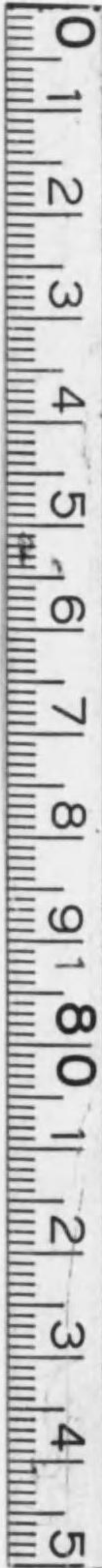


特 252

200

中村
心
上
を
こ
す
る

岩
船
郡
地
理



始



特 252
200

村上を中心とする 岩船郡地理目次

序	一
一、汎論	一
一、自然と交通	四
二、越後の米と石油と雪	一
二、處誌	一一
一、岩船郡の地勢と産業	一二
二、岩船郡の村落	一七
三、村上地方	一九
四、神納郷	二七
五、荒川流域地方	二九
六、荒川下流平野地方	三二
七、三面川上流地方	三三
八、山北地方	三四
九、粟生島	三七

序

郷土教育の主張に鑑み、女学校の生徒に読ませる村上地方を中心とする地理書が必要であると考へたのがこの小冊子を編纂した私の動機である。併し私は當地で教職に在る事三年にも満たない者であるから、この舉が余りにも無法であり、越權でもあるであらう事を考へ、又郷土の歴史的资料は多くあるが、これに反して地理的资料は少いから之に苦しむであらう事もよく知つてゐたのである。唯「案するより産む」といふ私のさゝやかな教育的良心が終に拙き筆をどらしたのである。

併し大方の御援助と御指導によらなかつたならこの小冊子でも出来上らなかつた事を思ひ合せるとき誠に感謝に堪えないものがある。この小冊子は

- 「村上郷土史」 村上本町教育會發行
 - 「岩船郡案内」 須貝治郎太氏
 - 「村の人文地理」 佐々木彦一郎氏
 - 「日本地理大系卷二」 「岩船海岸の饅頭岩」 新潟高等學校教授徳重英助氏
 - 「日本の誇」 中部篇 北垣恭次郎氏
 - 「笹川流」 佐藤傳藏氏
 - 「日本少年地理文庫」 西亀正夫氏
 - 「宮堅八幡宮社叢」 眞保一輔氏
- に負ふ所が多い。



唯私は、それ等の人々の御研究なり、御高説が私の筆によつて至められ、誤られてゐはしないかといふことを憚るのである。この點諸氏の御寛恕を乞ふ次第である。

又村上の歴史及び特産（堆朱堆黒、鮭、茶、山邊里織等）については、出来るだけ其の道の人に聞き正し、或は原稿の御検閲を経たのである。

又寫眞については、樋木繁之助氏、須貝治郎太氏、尙新光社の御好意を辱ふしたのでこゝに感謝の意を表する次第である。

其他大方の御指導を仰いだのであるがこゝに枚舉する事を略さして戴くことにする。尙この小冊子が餘暇早急の間に書き上げられたので、杜撰な點も少くないであらうから皆さまの御指導によつて今後機會を見て訂正したいと念願する次第である。

昭和八年四月十五日

結 城 伴 造 識す

一、 汎 論

一、 自然 と 交通

新潟縣は越後の國と佐渡の國とから成り、面積一万二千五百七十九平方杆（岩船郡の面積約一千五百方杆）人口二百三十五萬（岩船郡人口八萬四千）を有する大縣である。今若し北、山形縣との境に近い府屋の驛で青森發大阪行の普通列車に乗つて新潟縣を縦走し、富山縣との境に達するには約八時間を要する。此の時間は、富山、石川、福井の三縣を通過する時間に相當するのである。

越後の國は前に日本海を控へ、後に越後、三國、飛彈の大山脈を背負ひ、中に廣い越後平野を抱いて、昔は自給自足の出來た地勢上全く別天地として特別の生活様式が發達した國である。併し今や交通も四通八達し、物資の移出入も文化の輸入も自由で、到る處過去の歴史の上に、近代文化の華が開いてゐるのである。過去の歴史も現在の文化も、これ皆自然と人間との合作である。今吾々が新潟縣の地圖を読むことによつて、人間の智慧が如何に自然の上に働きかけて、如何に之を征服してゐるかといふことを知ることが出来るであらう。

西境親不知は飛彈山脈の海に迫る所、人も知る天下の難所である。夏の海は割合に静かであるが、冬は相當荒れて、大波は、この嶮所の崖に吠えかゝる。崖には三つの隠れ穴があつて、路を行く人は寄せては返す波を見はからつて、穴から穴へと進む。大波がドーンと打ち寄せて來ると親は子を捨て、子は親を顧る暇もなかつたといふので親不知といふ名がついたと言はれてゐる。こんな難所も明



親不知

治五年崖の中腹を穿つて新道が開け、其後大正二年鐵道北陸線も通じて今は夢の間にこゝを通過することが出来るのである。

北境山形縣に通ずる所も越後山脈の支脈葡萄山脈が海に迫つてゐるので、親不知に劣らぬ難所である。昔庄内(鶴岡、酒田地方)へ越すに村上から塩野町を經、葡萄峠を越えて、勝木、大川谷に出てゐるのは此の難所を避けてゐるのである。今は數個のトンネルを穿つて、羽越線が通じ、汽車は村上から約一時間で、此の難所を苦もなく通過してゐる。そこで葡萄峠を越す旅人は殆んど跡を絶ち、昔道行く人の無聊を慰めた谷間の鶯の初音も、道もせに散る山櫻の花や、全山を埋める紅葉の色も、今は唯山賤の心を引くのみである。昔榮えた峠下の茶屋や旅人宿は殆んど影を没してゐる。

又阿賀ノ川の横谷を利用して新津より福島縣に通ずる磐越線、直江津から中頸城の平野荒川に沿つて長野縣に通ずる信越線も出來て、東京を中心とする表日本との交通もよく開けたのである。それに昭和六年上越線全通して昔の新潟より江戸への主道三國

街道は日本一の清水トンネルによつて、難なく越えられる。此線は中部日本の交通上に重要な意味を有つもので、若しそれ新潟ウラジオストク間の交通が開けたならば、國際的な重要交通線ともなり得るのである。又上越線の開通と滿洲國の建國とは、新潟港の發展を豫約するものであり、新潟縣民の自覺を促すものと云はなければならぬ。

又下越荒川の横谷を利用して、山形縣米澤地方に通せんとする今坂線の進展もある。この通路は昔米澤街道(小國街道)といふて、旅人は重い荷物を背負つて草鞋ばきで、榎木峠や大里峠(折峠)の細道を上り下りしたものであつたが、明治の御代となつて米澤縣道が開かれて、非常に便利になつた。併し其後米澤、山形、新庄、余目、鶴岡、新津を迂廻する鐵道の便も完成し、磐越線の開通と相俟つて、この米澤街道を通る旅人は殆んどなくなり、昔を偲ぶ旅人宿が空しく残つてゐるのみである。然るに最近今坂線の工事着々進行し、坂町と下關との間は既に開通し、關谷は再び活氣附いて來たのである。

又信濃川が與へた自然路を利用する飯山鐵道、更に上越姫川溪谷のフォツサ、マグナの構造線に沿ふた糸魚川から信濃に通ずる昔の街道も近き將來に於て鐵道が通ずるであらう。

(参考)

新潟縣各都市の面積及人口

	面積	人口	面積	人口
全管	八一五、五五二方里			
新潟市	一、三二二	一三一、六四五	長岡市	一、〇三一
高田市	〇、五一三	三二、六〇二	北蒲原郡	七三、七六五
				二二一、八六八

中蒲原郡	四八、一六一	一九一、四二〇	西蒲原郡	二七、三一〇	一五二、〇三三
南蒲原	三九、〇〇八	一四三、〇二五	東蒲原	六二、二三三	三六、四九〇
古志	三〇、六五九	九三、三四四	北魚沼	六八、一二八	七七、三一七
三島	二一、七四四	九四、〇五三	南魚沼	六二、三七三	六八、六二六
中魚沼	四〇、六一〇	八七、九三三	刈羽	三三、一〇八	一二四、三七六
東頸城	二七、八六五	五六、四九〇	中頸城	七三、三一八	一八六、九五六
西頸城	五二、八三四	七〇、二二二	岩船	九六、〇〇〇	八三、九三〇
佐渡	五五、五八〇	一〇九、一六五			

- 問
- 1、岩船郡の面積と新潟縣の總面積とはどんな割合になるか
 - 2、岩船郡の人口と新潟縣の總人口とはどんな割合になるか
 - 3、岩船郡と新潟縣との人口の密度を比較せよ
 - 4、今午前九時として村上より東京へ行くに磐越線、信越線、上越線の三線をされば、各々何時に東京に到着するか
 - 5、村上驛より信越線で東京に行くより上越線で行く方が何軒近いか
 - 6、新潟港の港としての欠陥は？
 - 7、フォッサ、マガナとはどんなことか

二、越後の米と石油と雪

越後と云へば、日本一の米どころとして、石油の産地として、又雪の國として世に知られてゐる。越後の職業率を調べて見ると約六一％は農家で農業の盛な北蒲原、中頸城地方は七五％以上に及び、

岩船郡は現住戸數一三八七一戸に對し農業を營む戸數が九一八八戸（昭和五年）となつてゐるから約



村 農
(りよ系大理地本日社光新)

六六％位になる。即ち越後の經濟的基礎は農業殊に米作にあるといはねばならぬ。米の一年生産額は三百五十萬石を超過し約百五、六十萬石余つて他縣へ輸出してゐる状態に在る。之は勿論耕地の廣い爲めでもあるが、夏土用中の氣温が存外高くて稻の發育を助ける爲めである。唯惜しいことには秋の收穫時に雨が多く、而もぐすくしてゐると雪がふるから自然、米の品質が粗悪になり易い、そこで晩稻をさけて早稻を植付け早く收穫して乾燥を十分にすることに努め尙縣外に送り出す米は検査所の検査を受けることにして越後米の聲價を高めることにしてゐる昔上杉謙信は米を中心とする自給自足によつて北國に覇を唱へ、徳川幕府は米を中心とする越後の經濟力を頼み、且つ恐れて、封地の分割政策をとつたのである。それで越後は他國に比して藩が非常に多く、しかも小さい藩許りである。これ等のことが民情を決定してゐるやうである。又米に伴

つて越後人は外に流れ、關東に或は北海道に移動してゐる。

(参考)

新潟縣米生産額(概數)

昭和元年	二六〇萬石	昭和四年	三二七萬石
昭和二年	三四〇萬石	昭和五年	三六七萬六千石
昭和三年	三三三萬石		

越後米府縣別移出石數(昭和五年)

東京	五八、五萬石	長野	二六、三萬石
北海道	一六、〇	群馬	一四、〇
神奈川	一八、四	其他埼玉、山梨、静岡、神奈、愛知、大阪等	
計	一六六、〇		

縣外出稼人口

東京	一五萬人	男	八萬人	女	七萬人
長野	一萬五千人	男	四千人	女	一萬一千人
群馬	一萬二千人	男	四千三百人	女	七千七百人

- 問
- 1、上杉謙信は何處に居城してゐたか。
 - 2、謙信は武田信玄と何處で戦つたか。
 - 3、信玄に塩を贈つたと云ふがどの道を通つて贈つたのであらうか。
 - 4、越後の藩と其の石高を調べて見よ。

- 5、長野縣、群馬縣に女の多く出稼する理由。
- 6、あなたの村には、小學校を卒業するにすぎ、長野縣や、名古屋地方へ女工として出るものはないか。



四山油田 (新光社日本地理風俗大系より)

次に石油である。天智天皇の七年七月(約千二百六十年前)越後から燃える水と燃える土とを献じた

とある。爾來石油の産地が所々に發見せられたらしい。明治八、九年頃工務省の御雇技師米人ライマンが我國の油田調査をやつて、我國は古生層が少くて新しい第三紀層が多く火山地方が多いからあまり有望でないといふ悲觀説を唱へたのであるが、米國のカリフォルニアの油田、露國のパクターの油田が第三紀層であり、メキシコや南洋の油田が、火山地方にあることに力を得て明治廿一年日本石油株式會社の設立もあつて段々盛んになつた。石油産出量は一時百五十萬石に及んだが、現在は百萬石に充たない。越後油田は新津、西山、東山、頸城の四つに分れる。

一体石油は軟かな砂岩中に滲み込んでゐる。そして一寸考へると泉のやうな地層にありさうであるが、

石油のみは反対で、背斜層はいしやうといふて、馬の鞍の高い部分のやうな處に石油が集り、そして其の下方に塩水が溜つて石油を支へてゐるのである。掘り方は多くはロータリー鑿井法さくせいほうで、錐を廻轉させて岩層を削つて孔を穿ち、遂に石油のある所に達するのである。この仕掛で掘るには高い槽やぐらが必要である。そして石油を採るには唧筒で汲み出すのが普通である。油井から汲みとつた原油は鐵管で石油タンクに送られる。タンクの中に静かにおかれて、比重の大きい水や泥が下に沈み、上に比重の軽い原油が浮ぶ。斯くして得られた混り物のない原油を蒸溜釜で蒸溜して、比重の大小や品質によつて揮發油ガソリン、燈油、輕油等を製し、最後に重油が残される。此の重油は汽船や軍艦を動かすにはなくてはならぬものである。越後の油田からとられた石油は沼垂ぬつた、長岡、柏崎、直江津の製油所で精製される。

問 1、西山油田、東山油田は何處にあるか。

2、日本は石油を多く産するか。

3、石油は日本では新潟縣の外何處に産するか。

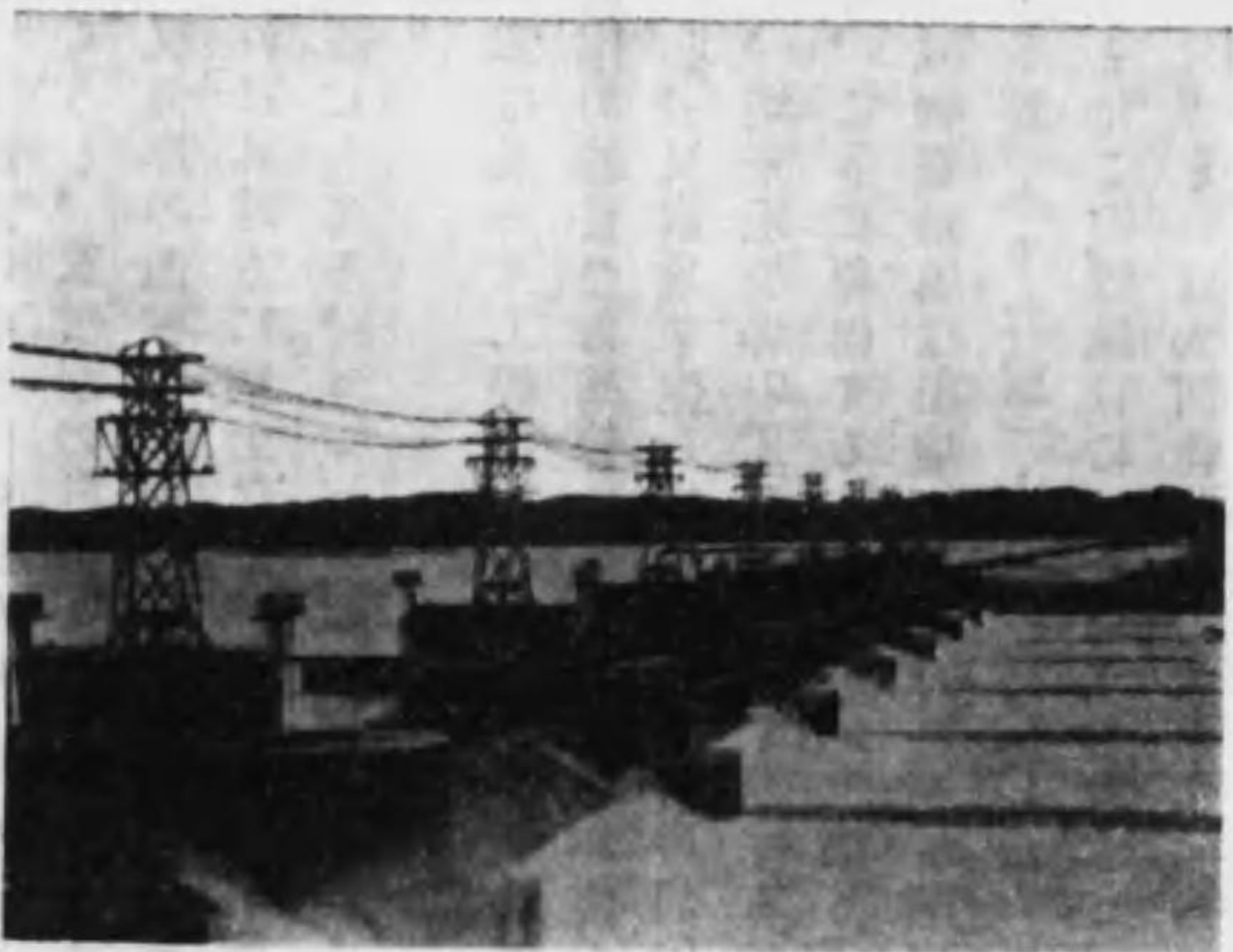
次に越後の一般的特質をなすものは、雪である。冬季日本海の水蒸氣を持つた季節風は越後境の山脈にあたつて、雪を多く降らす。雪は單に山間の交通を杜絶するのみでなく、爲めに汽車も延着し一時不通となる事も珍らしくない、これを防禦し、除去する爲めに鐵道省の費用も年々相當價格に上る。吹雪を防ぐ爲めに停車場附近に設けられた雪の壘も暖國のものには珍らしく、吹雪の中を突破するラツセル車は誠に壯觀である。

又この雪のために、住居、服裝等の生活様式が暖國と異なるどころが少くない。市街地にはガンギがあつて同じ側の家には雪をふまないで行くことが出来る。家屋の建て方が大社式であるのを多く見る。大社式は概して間口が狭くて奥行が長いわけであるから、防寒といふ點から云へば都合がよいであらうし、又雪崩の危険も少いわけである。併し一面光線の少い薄暗い陰氣な家となるのである。又海岸の漁家等に殊に多く見るのであるが、家根がスゲ葺きでその上に石が置いてあるのがある。これは其地方に粘土なく、瓦の製造が不振であるといふ事もあらうが、風雪を考へてのことである。衣服にしても、モンペイは雪國獨特のものである。その他藁靴等は雪國の農家にふさはしいものである。

雪は又スキー等のウインタースポーツの發達を促したのみではない。山間部に於ける冬籠りは水田農作の特長たる季節的勞力餘剰と相俟つて、勞働經濟に多大の影響を與へ、季節的出稼の最大原因をなし、又副業を促し特殊工業經濟の起因ともなつてゐる。村上町に彫刻家、髹漆師きうしつし、大工職等が輩出し、堆朱堆黒等の工藝品の多く産するものも、山邊里織のやうな機械工業や其他製糸業等が發達するものも、こゝに原因すると見る事が出来る。

織物業勃興は山地より平野に至る漸移地帯に多く見るので、山邊里の外五泉(五泉平)、村松(玉生絹)、小千谷(小千谷縮)、十日町(透綾)、栃尾(栃尾紬)、見附(越路織)、塩澤町(越後上布)等はそれである。またこの雪融けによる河水の増水と、それに對する治水工事とは越後人に涙ぐましい努力を拂はせた。それは大河南分水の大事業となつて現はれた。延長三七六キロ餘、越後に入つては北越の大縦谷平野を縦貫し、米に石油に織物に著しい經濟力を抱擁する信濃川は、越後の大豊庫であると共に一面古來水害の頻發による大きな痛いたみでもあつた。地上に溢れた高水位は十數尺に及び、沿岸各町村は全

く破壊流失の厄に遭ふ大氾濫は數年に一度は必ずあつた。近く明治三十八年には格別の出水もないにかゝはらず、蒲原三郡の被害段別、田三一八三九町



(りよ系大俗風理地本日社光新) 堰水分津河大

歩、畑九四六〇町歩、損害四百四十萬圓であつた。こゝに於て大河津分水の決行を見たのである。明治四十二年大規模なる分水工事が着手せられ、大正十五年完成して信濃川の面目は一新したのである。大河津分水工事は信濃川の下流大河津の屈折點から寺泊に向つて約一〇軒の間を新たに開鑿し、新河路を通ずることによつて氾濫を防ぐものである。分水路の幅は二七〇米乃至七二〇米であつて分水路及び信濃川の本流には自在堰及び洗堰を設けて水量を調節し、通航及び灌漑の便を保つてゐる。工費二千五百萬圓、三分の一を縣費、三分の二を國家が負擔した。是によつて下流地域の數萬町歩の水田と數百の村落とは永久に水害を免れ、新潟港の改修も可能となり、新潟港の更生も豫約されることとなつた。

(参考)

	最 深 積 雪		
	一月上旬	中旬	下旬
村 上	四九・六厘	五八・三厘	三一・五厘
新 潟	四〇・〇	三三・〇	一五・〇
長 岡	七五・八	一一八・二	一〇〇・〇
高 田	九九・一	一〇五・〇	七一・三
津 川	九一・二	八六・七	八二・〇
六 日 町	一二五・四	一一五・五	一二五・四
		二月上旬	中旬
		二二・〇厘	一六・〇厘
		〇・〇	四・〇
		六〇・六	四八・五
		六七・〇	六三・三
		七二・五	九七・〇
		一〇五・六	一三二・〇
			下旬
			〇・〇厘
			〇・〇
			二八・八
			四一・一
			七一・〇
			九二・四

問

- 1、信濃川の源はどゝか
- 2、「がんぎ」とはどんなものか
- 3、家の建て方が表日本と異つてゐることに氣をつけて其の理由を考へよ。
- 4、「もんべい」の雪國に必要な事を考へよ。
- 5、ラッセルを見たことがあるか。
- 6、降雪量は下越と上越とどちらが大なるか、又海岸地方と山間地方とどちらが大なるか

二、處 誌

一、岩船郡の地勢と産業

花崗岩を主体とする飯豊山系は北部越後の荒川以北なる岩船郡に入ると、東に朝日山系、中央に鷲ヶ巢山系、西に葡萄酒系が雁行し、其間に二つの縦谷を挟み、これを流れる北の三面川、南の荒川の兩水系は、終に山脈を破り、美しい横谷を作つて西流してゐる。この附近一般に縦横に走る断裂線の多いのは、地壘山地であることを示すのである。朝日山系と鷲ヶ巢山系間の縦谷は、三面川上流の三面盆地及び荒川上流の小國盆地で、鷲ヶ巢山系と海岸に並行する葡萄酒系間の縦谷は即ち村上盆地である。山形縣境の朝日岳（一八七〇米）に發した三面川は三面の仙境を潤し、布部を経て、高根川、門前川等の支流を集めて延長四十軒、葡萄酒系の南端下渡山（二三七、八米）を迂廻して瀬波港に注ぐ。荒川は其の源を山形縣に發し、國境の山脈を破り西流して下關に至り楔狀の平野を作り、女川等を合せて日本海に注ぐ延長八十五軒、この川の作つた沖積地は坂町、所謂神納荒川の平野で、越後平野の北端をなしてゐる。殊に此の二つの川の流域が岩船郡で、最もよく開けた所で従つて人口の密度も大である。岩船郡の文化は實に、三面川と荒川の賜物と云つても過言ではあるまい。これ等の平野は云ふ迄もなく主として水田で米作が盛んに行はれ神納米、荒川米は殊に名高い。

この平野と山地との漸移地や山間の畑地には桑畑がある。之は此の地方の副業としての養蠶業を促すものである。

三面川と臥牛山、山居山の松山丘陵に包まれてゐる村上地方の平野は、周辺の低平の地に水田があるのみで中央の少し高い乾燥地は畑地で、茶、桑其他野菜類の栽培盛んで桐の木も植えられてある。茶の樹は日本の最北のものである。

併し本郡は面積より見ると、大部分が山地で、従つて縣下で、林業は最も盛んな方で、大川谷、三面、關谷等は杉の良材も出し、山間の村落は到る所薪炭を産してゐるのである。

村上町を中心として、岩船、瀬波町、金屋、關、坂町、平林、塩野町、府屋等の地方的中心部落の街村に於ては、食料品、日用品を主とする商業行はれ、定期に開かれる市は田舎と都會との色々な意味に於ての接觸である。又山邊里の織物工業や、村上町の特産堆朱堆黒等雪國によさはしき工業も行はれ、酒の醸造、茶の製造も盛んである。又海府浦より瀬波、岩船、塩谷の海岸及び粟島の沿岸は漁業が盛で、鮭、鯛、鮪、鱈、鰯、鮫、天草、海苔、牡蠣等を産し村上地方に供給すると共に新潟地方へも送る。就中天草は羊羹、トコロテンに使用せられる許りでなく目下需要の範圍廣まり、飛行機製作にも必要欠くべからざるものといはれてゐる。三面川の鮭は有名で鮎と共に非常に賞味せられて居る。

(参考)

岩船郡各町村ノ面積及人口

面 積	人 口	保 内 村	面 積	人 口
關谷村	一、一五七方里	女川	一、三〇三方里	四、三六二
金屋	〇、八八四	神納	七、二九五	三、六一五
平林	一、五二六		三、三四一	五、四六一

西神納	〇、四〇九	一、八三五	岩船町	〇、四四三	四、四四五
瀨波町	〇、五一六	二、一九九	村上町	〇、三三四	九、六四一
村上本町	〇、〇九二	二、一九六	山邊里村	四、五八三	三、七〇三
箱根	三、六二七	二、七六三	三面	二、三三八	二、五一九
高根	八、〇六二	三、六一七	狼澤	一、六二五	三、三四六
塩野町	三、九六九	三、八五九	黒川俣	四、一六〇	二、五三一
八幡	一、一九五	二、五三九	大川谷	二、二三六	三、九三九
中俣	五、八三一	一、六五八	下海府	五、一二九	二、六四〇
上海府	三、二七七	二、八八一	栗嶋浦	〇、六一九	八四三
岩船郡	一四四二九四石				
關谷村	一一九五	保内村	九九一八石		
金屋村	一一二九八	女川村	七五八四		
平林村	一〇〇九四	神納村	一八九四四		
西神納村	九九七三	岩船町	四〇九三		
瀨波町	一一七七	村上町	二一八四		
村上本町	一六五	山邊里村	一二五三〇		
館腰村	七四七二	三面村	三二〇五		
高根村	七七八四	狼澤村	五六六五		
塩野町	六七二四	黒川俣村	四〇二三		
八幡村	一八三〇	大川谷村	三二六〇		
中俣村	一〇四五	下海府村	二〇八四		
上海府村	一一一九	栗嶋浦村	一七二		

北蒲原郡	二三五五・一町歩	古志郡	二〇八三・一町歩
北魚沼郡	一七六八・五	岩船郡	一六七二・七
南魚沼郡	一六一二・五	中魚沼郡	一五〇四・三
中蒲原郡	一二五三・四	三島郡	一〇三八・九
其他見るべきものなし			

公私有林野面積

立木地	針葉樹林	闊葉樹林	針闊混汚樹林	竹林	計
新潟縣	六三九〇・四	一八五二四五・〇	五一六四六・三	一四九三・七	三〇二二八六・四
岩船郡	一〇二〇七・一	二〇五七三・八	五五六〇・六	一〇四・〇	三六四四五・五
岩船郡は東蒲原郡に次いで第二位					
林野産物總價額					
薪炭林					
竹					
林野産物雜額					
計					
新潟縣	一四二五三二九圓	一五〇七五六三	一〇六七一九	三〇五〇一二五	六〇八九七三六
岩船郡	一六六五三〇	一七三六七七	一〇八九八	四九四〇〇四八	八四五一〇九
岩船郡は縣下第一位					

本郡の主要物産の生産額を示せば

産米	一四萬四千石
林産	八四萬五千圓
水産	五〇萬圓 (漁獲物、水産製造物、遠洋漁業、水産養殖)
蠶糸	八八萬圓
酒類	七〇萬圓 (味噌、醬油、酢を含む)
織物	二〇萬圓
漆器	八萬八千圓
茶	一二萬六千圓

(昭和五年度概數)

町	定期	市場	
村上町	二、七日	岩船町	五、十日
平林	二、七日	金屋	一、六日
關野町	一、六日	府屋	六、六日
	三、八日		

- 問
- 1、皆の食べる米は何處で作られるか
 - 2、魚類は何處から来るか
 - 3、炭は何處から来る炭を買つてゐるか
 - 4、桑畑はどんな處にあるか
 - 5、蠶は一年に何度飼ふか
 - 6、繭は何處に賣るか

7、市には田舎の人はどんなものを持つて出るか
 商人はどんなものを賣つてゐるか
 商人は其の目どこから来るか

二、岩船郡の村落

岩船郡の地勢を按ずるに、大体次の五つに別ける事が出来る。

- 一、朝日山系、鷲ヶ巢山系、葡萄山系による山地
- 二、三面川、荒川流域
- 三、岩ヶ崎より鼠ヶ關に至る海岸地域
- 四、村上地方の平野
- 五、神納、荒川平野

朝日山系は未だ交通路なく従つて人跡を見ない所もある位であるが、鷲ヶ巢、葡萄山系は交通路が開かれ、米澤街道は小國盆地に、葡萄の街道は庄内地方に通ずる重要な通路である。それ等の通路に沿ふて宿場としての部落が発達したもので葡萄街道の鹽野町、葡萄、海田、北中、米澤街道の關、八ツ口、金丸等はそれである。鹽野町、關等は街村の村落形態をなし、地方の中心地となつてゐる。外に山道が各部落と部落とを通じて終に小國盆地や庄内地方に出てゐるこの山道に沿ふ部落は台地性の所や山間の小盆地にある所謂山村部落で炭焼や木礎等の山稼を生業とする部落で文化の程度も低い山村部落の中には、山熊田、三面の如き、一種の隠田部落の如きものもあり、外部との交渉も少な

く、物々交換や、大家族制度的な、昔のままの風習さへ傳へてゐる所もある。

三面川、荒川の流域の米作を主とする沖積地の部落は水害を避けて、山の周辺に發達してゐる。猿澤村の部落の如きは適例で、宮ノ下、鶯ノ渡路、猿澤、板屋越等一種の鍵村の形態をなしてゐる。

岩ヶ崎以北の海岸は、狭長な海岸平地に僅かに漁業を生業とする小部落が存在し、寒川、勝木川、大川等の海に出る所に、寒川、勝木、府屋等地方の中心部落が發達して、上流の山村と相通じてゐる。

これ等の海岸に沿ふ部落は羽越線の開通以前は、部落から部落に行くにも峠を越えなければならぬので殆んど孤村の感を呈してゐたのである。

村上町は自然的に發達したといふよりは封建時代の城下町として、寧ろ人為的に作られ又人為的に變化されて來たと見るべき點が可成り多く、本町が畑作を主とする農村に似て散村的であることは村落形態の上から興味あることである。

神納荒川平野の村落は、越後平野の形式をとつてゐる。神納平野はもと沼澤地で、岩船潟の趾等其の片身として残つてゐる。諸部落も（上助淵、殿岡、有明等）山の縁に發達し道路もそれ等に沿ふて通じてゐる。越後は一体水の過剰な所であつて民家や道路はこの水の害を避けてゐるのが普通である。併し沼澤地も埋れ此の沼澤地が水田と化するに至つて、そこに村落も發生してゐる。海端等の地名があるはそれ等の消息を物語つてゐるものである。是等の部落は乾燥地を選んで出來るもので又共同勞作を必要とするが故に集村の形式をなし、必ず畑地を背景としてゐる。併し平野の中央に出來た聚落であるが故に山に遠く焚木に不自由を感ずると見えて、西神納村の部落には各戸、秋に松葉をかき集め束ねて冬季間の家の圍とし、春になつてこれを燃料に使用してゐる。

沼澤地の前面海に臨む所は砂丘で白砂青松の松林が連続して居る。沼澤地に於ける砂丘は乾燥地として村落の發達を促す。岩船はこの適例で塩谷も亦砂丘の上に出來た漁港である。

村上地方の地質

村上地方の地質は上部が第三紀層の最上部をなす砂質頁岩及び砂及び礫の互層で、その上に沖積層があり、海岸には砂丘がある。松山温泉の海濱に横たはる礫岩は第三紀層下部の基座に露はれてゐる灰色頁岩で、海蝕の爲め砂丘の發達に伴ふて崖下に姿を現はしたもので、圓味を帯びてゐるのは、冬季の海波の浸蝕作用の結果硬質の部分のみが残つたが爲めである。

三、村上地方

村上は、臥牛山麓の低平な沖積層の上に城下町として發達して來た。臥牛山を弧狀に抱いた細長い町である。此の地は昔小泉の莊本莊と稱し、應安年間（約五百六十年前）上杉氏の領地であつたが、後天文九年（約三百九十年前）本庄繁長猿澤より當地に移り、臥牛山を根據とした。慶長三年（約三百三十年前）村上頼



(系大理地本日)

勝加州（加賀の國）から移轉したので、其後村上と稱するやうになつた。

明治九年村上本町と村上町との二つの自治區に別れ、村上町は商店軒を並べた市街狀をなして居るに反し、村上本町は士族屋敷跡で、杉垣を圍らした一見古風な散村的形式をなして居て、風俗習慣等より民情迥異にして居る所が多い。人口は兩町で一萬を超えてある。

村上本町の東端に在る臥牛山は海拔一三五米で、舞鶴城趾である。城は堀丹後守直寄の築城で、維新の際は内藤氏の居城であつたが、今は老松と石垣とを昔の名残りとして留めて居るに過ぎない。山上の南端に舞鶴城趾の碑がある。こゝよりは、村上近郊一帯の内に集り、市街曲折の美三面川の清流も手にとるが如く見えて、近くは茶畑、水田、遠くは粟島、佐渡ヶ島、鷲ヶ島の雄姿すら四時の折々に、それ等の裝を變へ、眺望絶佳である。山麓に縣社藤基神社がある。嘉永二年（約八十年前）の建築に係り、村上藩祖内藤信成を祀る。京都所司代信敦老中信親を合祀して縣社と昇格した。境内に戊辰殉難碑及び戊辰戦後藩の責を負て塩町安泰寺に於て自裁した舊藩家老鳥居三郎氏の追悼碑がある。又三町光徳寺は内藤家累代の碑寺であつて、堀丹後守直寄の墓もある。榊原式部大輔政辰氏寛文七年春（約二百七十年前）京都名越左衛門尉光頼をして鑄せしめた大鐘は今尚村上町小學校庭にあつて三百六十年間變りなく午報を告げて居る。

縣社羽黒神社は村上町の氏神社である。持統天皇の朱鳥元年（約千二百四十年前）初めて鎮座すと。奈津姫命、稻倉魂命、月讀命の三柱を祀る。天文年間本庄氏莊内を征討して凱旋の際出羽の羽黒山的神靈を勧請したので祭禮には凱旋記念の先驅荒馬の行事をなす。祭禮は毎年七月七日で本郡第一の賑かな大祭である。宮殿に村上古詩人の羽黒山八景の詩を書いた大額がある。

（参考）

舞鶴城趾について

建武中小泉持長始めて壘居を此の地に築いたと言はれてゐる。城主氏名及び築城年層左の通である。



三面川産魚

永正中	上杉氏の將 春日光種	二十七年間
天文中	上杉氏の將 本庄繁長	五十八年間
慶長中	村上 義明	二十一年間
元和中	堀 直義	二十五年間
寛永中	城代 林 某	三年間
正保中	本 多 忠 義	六年間
慶安中	松 平 直 矩	十九年間
寛文中	柳 原 政 倫	三十八年間
寶永中	本 多 忠 孝	七年間
全	松 平 輝 貞	八年間
享保中	間 部 詮 房	四年間
全	内 藤 式 信	百五十三年間

同 1、城趾につきて研究して見よ
2、昔のお堀の趾はどうか

越後村上と云へば、古來鮭の名産を以て知られてゐる。昔は冬になると、産卵のために川を溯る鮭が非常に多く、滿川之れ鮭で、河水の色も變る程であつたと云はれて居る。代々村上藩主のものとして、年々漁場を入札に附し、運上金（税）を納めさせたものであるが、明治十五年四月、舊村上藩に屬する士族七百余戸は鮭産育養所といふものを組織して、種川より捕獲した鮭より採卵し、堀片町で孵化させ、其の幼魚を放流するのである。この孵育法は全國で三面

川を以て、始めとする。其収益は子弟の奨學資金にもあてられてゐる。是等のことが、今日多數の人材を當町から輩出して居る所以の一でもあるのである。

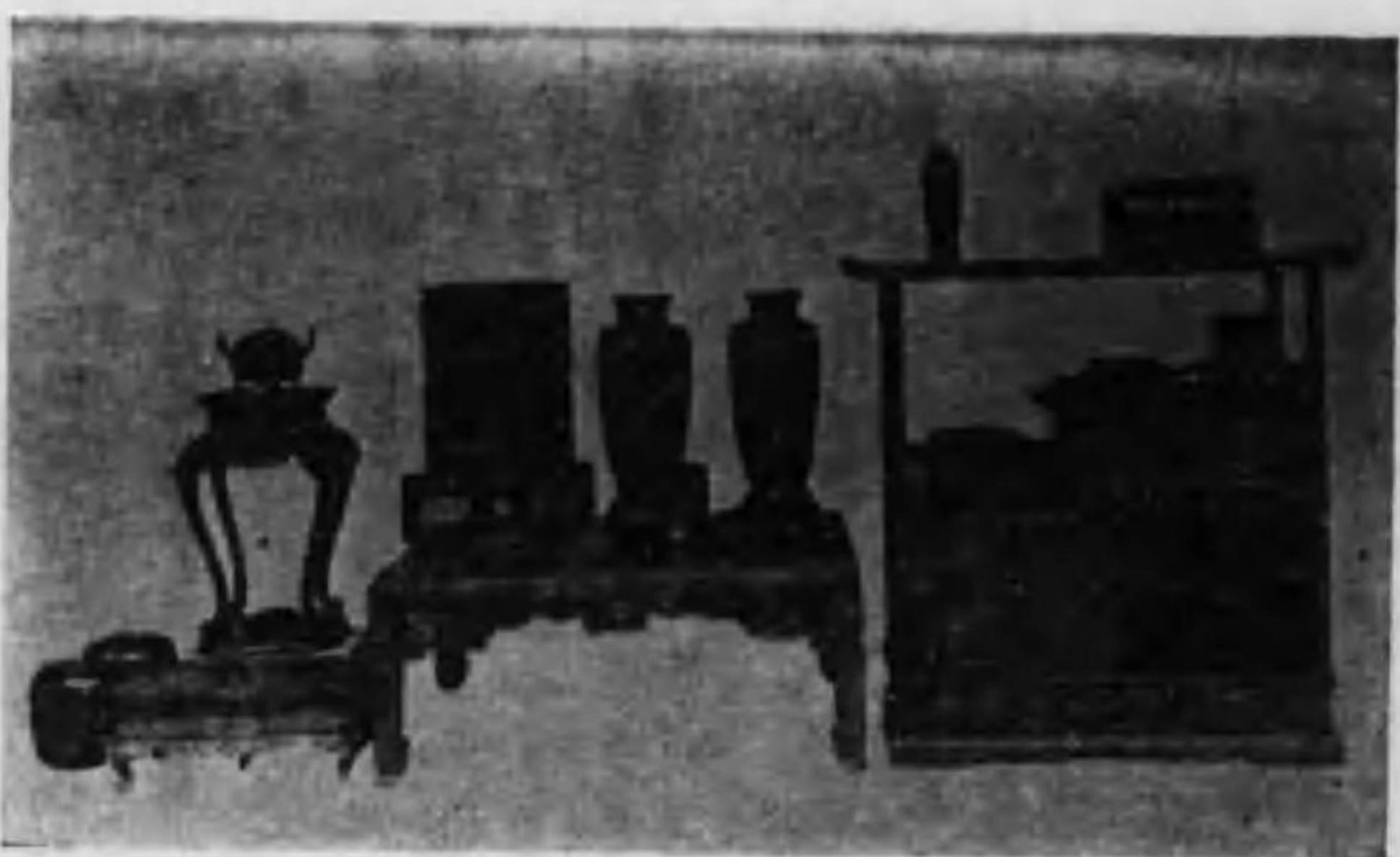
- 問
- 1、鮭はどんな習性をもつた魚か
 - 2、川で獲れた鮭と海で獲れた鮭とはどんなに違ふか
 - 3、此頃は三面川から一年ごの位獲れるか
 - 4、川さらひはいつ頃行はれるか
 - 5、鮭を用ひた村上特殊の料理があるか



茶 摘 み

「七曲り登れば高き臥牛山下ちや乙女の茶摘唄」の情景其儘に、村上驛を中心にして、美しい茶畑が開けて居る。元和六年（約三百年前）村上町大年寄役徳光屋覺左衛門、村上地方産業振興の爲め、宇治及び伊勢より茶實を移入して有志に奨励勸誘して播種せしめたに始まり、當時黒蒸茶といふ極粗悪な茶を製造してゐたが安政六年（約百十年前）宇治の玉露法を傳習して製茶法を改良した。明治十年頃に至つて緑茶、紅茶等の製法も傳習して米國及浦鹽斯德の海外輸出をも計り、販路擴張して一時隆盛であつたが、現在は昔日の如くではない。併し村上茶は獨得の風香を有し、其の名稱は全國に普ねく、殊に北海道及關西地方に多く販路を持つて居るのである。

- 問
- 1、村上の製茶が以前に比して衰へる傾向のある理由は
 - 2、一年何回茶を摘むか
 - 3、茶と雪とは關係があるか
 - 4、どんな名の茶があるか。價はいくらぐらいか
 - 5、村上茶はどの地方へ出て行くか



堆 朱 堆 黒 塗

堆朱堆黒も村上の特産の一つである。由來建築は彫刻を生み、彫刻は漆塗を呼ぶものであるが、藩主の交代に伴ふて、菩提寺と一緒に持つて來た關係もあつて、村上地方は一般に寺院の建立頻繁で、勢ひ此の方面の技術が進んで來たのであるが、それに又代々の藩主の奨励もあつて、技術精巧の工匠が輩出したのである。剩さへ此の地方は漆の栽培が盛んであつたといふ事も、堆朱堆黒の發達に貢献あつたものと云はなければならぬ。尙地理的に考察すれば此の地方は冬期雪深く、斯る家内工藝は、氣候の上より最も適合して居るものと云つてよからう。堆朱堆黒は文政の頃（約百十年前）玉楮象谷といふ人があつて、江戸詰の藩士が是について學んだに起つたと

言はれてゐる。當時模造堆朱堆黒の名漸く廣く、弘化年間（約九十年前）有磯周齋等の逸才が出て益々盛んになり販路も擴張され、堅牢と雅致に富んだ漆器として漸次有名になつて來たのである。

問 1、堆朱堆黒は藝術品ですか實用品ですか

村 上 小 唄

花と紅葉の舞鶴城趾

七ッ曲つて見おろす景色

瀬波湯が吹く松のかけ

サアサ村上おらの里

夏は早瀬で鮎釣る人さ

さらり涼しい柳の風が

戀し袂場瀬不動

サアサ村上おらの里

たぎる蘭釜糸とるころ

辛い仕事も親御のためと

女工七百いちらしい

サアサ村上おらの里

榮来るぞへお羽黒樓の

宵をさばく誰吹く笛が

梅は青梅前に添ふる

サアサ村上おらの里

上流は鶯ヶ巢白なる頃にや

雪の三面漁獲つゞき

今朝も川原に鮭の山

サアサ村上おらの里

ちやんちや茶籠に想ひも揃んで

色も香も濃い玉露の味は

茶もみ唄から出てころり

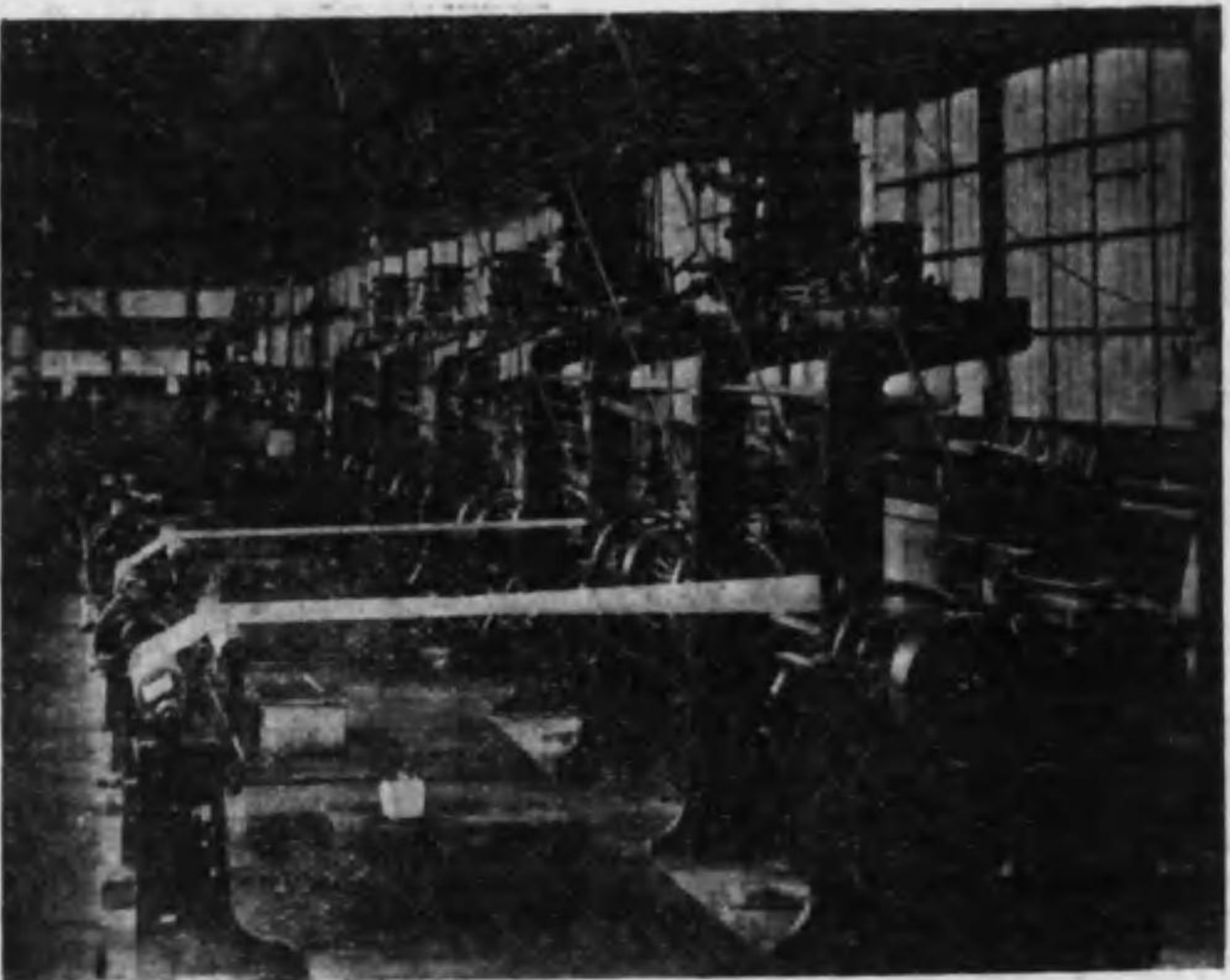
サアサ村上おらの里

（山貝三郎氏作）

村上歴代藩主の勲業によつて盛んになつたものに山邊里織がある。山邊里織は寛政の末年小田傳右衛門光貞を以て始祖とする。文化年間絹織物を織成し、後他地方の機織を傳習して販路を廣めると共に新しいものも考へ出して、百五十年後の今日、地質が丈夫な上に少しも變色しないといふので、有名になつてゐる。

問 1、山邊里織は多くごんなものにするか

村上町はづれより老松蒼然たるあたり約一軒にして瀬波港に達す。こゝは三面川河口に近い古い漁港で、寛治三年七月（約八百五十年前）源頼綱の臣三浦三郎兵衛信慶の圖せし越後國圖にも背波の文字が明記されてゐる。村社西奈彌神社がある。保命命を祀る。明治初年頃は村上町の外港として外國船其他の船



山邊里織工場

船の出入繁く、村上茶等を輸出した。瀬波港の北方葡萄酒系の南端の三面川に臨む所に多岐神社がある。祭神は端姫で、祠の背後は鬱蒼たる大木繁茂し、林間より流れ来る水は祠の傍岩壁をなす處に飛瀑をなす。是が不動の瀧である。



瀬波温泉

瀬波字松山に温泉がある。瀬波温泉といふ、村上驛より約二軒の里程定期に乗合自動車の便もある。冬期積雪のときは牛車で行く事も出来る。此處は明治三十七年に石油採取の目的で掘つた處突然噴泉したもので、晝夜間断なく九十尺の高さに熱湯を噴き上げて居る。無色透明の鹽類泉で温度は百五十度許りである。遊覽保養の土地として名高い。

- 問
- 1、瀬波街道の松並木は何か意味があるか
 - 2、瀬波の海岸からどんな魚が多くとれるか
 - 3、この漁業はどんな組織になつてゐるか
 - 4、網主と漁夫とはどんな關係にあるか
 - 5、温泉宿にはどんな家があるか
 - 6、この温泉は湯治客が多いか
 - 7、この温泉はどんな病によくきくと云はれてゐるか
 - 8、瀬波の海岸は一般に夏海水浴に適するか

瀬波町と瀬波温泉との間に濱山といふ一帯の丘陵があつて松林をなして居る。瀬波と村上との間の二百町歩に近い田畑は之れによつて風砂の害を免れてゐる。實に地方有数の砂防林である。昔村上町

の大年寄土田覺左衛門の力によつて出来たものと傳へられてゐるが、舊記によれば、一人や二人の力で出来たものでなく、又十年や二十年の單日月で出来たものでもなく、村上町と瀬波町との協同經營によつて出来たもので、何百年の日月を費して居る。

始めて植林したのは凡そ二百三十年前の事である。其後幾多の變遷はあつたが、村上藩の監督もあり、多くの人の勢力と心力を費したことは甚だ大である。現今國有保安林に屬して居る。瀬波より新潟に至る海岸は有名なる砂丘をなし、海岸線も單調で、裏日本海岸の特徴を發揮して居る。温泉場の裏山山居山の續きに鱸ヶ池がある、風光明媚である。

- 問
- 1、この地方の松林の松木はどんなに曲つてゐるか
 - 2、松茸の出る所はどこか
 - 3、保安林にはどんな所がなるのか
 - 4、保安林の管理や監督はどこでするのか
 - 5、砂丘はどうして出来るか

四、神 納 郷

茶の香り高い村上盆地の西南、岩船海の名残りである琵琶川の口に岩船港がある。こゝは北越漁業の中心地で、陸揚げされた鮮魚は、村上、新發田、新潟また遠く東京地方迄も運ばれる。附近の魚族は夏は暖流性、冬は寒流性で、鮭は三面川を控えてゐるので、漁業に恵まれてゐる位置を占め、港民

の約半數が漁業に従事してゐる。羽越線開通前迄村上町の外港として村上郷の咽喉を扼してゐた所であつて、最近築港問題が再び叫ばれて居る。

町はづれ明神山に縣社岩船神社がある、祭神は鏡速日命ニギハヤヒで、十月十八、九日に亘り神輿カミコの渡御があり、盛な祭典が行はれる。境内に磐舟イハフネ柵址の碑がある。

岩船字門内に諸上寺がある、釋加牟尼佛を本尊とする曹洞宗の古刹で、孝徳帝大化中（約千三百年前）の創立に係り、當時感應寺と稱し、磐舟柵を築き近郷の土地を寺領としたと。感應（神納）郷の名はこれによると言はれてゐる。

岩船と古來關係の深いのは神納、西神納地方である。この地方は昔入江であり、有明は有明灣の名残で、天平六年（約千八百八十年前）の震災で、海嘯が起り、入江大半埋没し、其後の地變で今日の様になつた。七湊の地名はこれを暗示するものであると言はれてゐる。兎に角、沼澤地であつた事は色々な證查によつて判るのであつて、三面川も城山の後を通つて岩船灣に出てゐた事も確實である。この地方は本郡第一の稻作地で、水田は南大平、桃川、松澤より流れて来る小川によつて潤はされて居るのであるが、又、平林村字小岩内の上方より用水路も開かれて、平林より岩船町に至る水田八百五十町歩が灌漑の便を得て居る。最近神納村では更に灌漑水路の計劃が行はれて居る。



石船神社

五、荒川流域地方

村上町より臥牛山と山居山との間の狭い坂路を越えて、神納平野の東縁に發達してゐる殿岡、小出有明、桃川等の部落を過ぎて桃川峠を越えんと女川村に出る。荒川に沿ふ今坂線によつて地勢上當然關の方に關係が多くなつたが、農産物等は從來の如く峠を越えて神納を経て岩船港への一脈の通路を保つてゐる。この荒川に沿ふて、湯澤、高瀬、鷹ノ巢の三温泉がある。羽越線坂町より支線今坂線に轉じて下關に下車し、間もなくこれ等の温泉場に到着することが出来る。湯澤温泉は塩類性硫酸泉で



荒川發電所

温度七十度、溪流に臨む保養向の温泉、高瀬温泉はアルカリ性塩類泉で七十三度の温度を保ち、荒川に沿ふ平地に湧き出て居る。鷹ノ巢温泉は、荒川の清流に臨み、静寂幽邃の地にあつて、鹽類性硫酸泉で、七十度の温度を保つ。こゝより小徑を辿つて川を下れば約一軒にして荒川發電所がある。村上水電株式會社の經營で、荒川の水流を利用し、總工費百三十萬圓を費し、約二ヶ年の工事期間を要して昭和二年七月送電を開始した。發生動力は二千百三十キロワットで、十燭光百六十萬燈である。村上地方の電氣は主としてこゝより發送せられる。又、荒川の支流女川に沿ふて東北開墾會社の經營にかゝる女川開墾地がある。愛知、富山、山形の各縣より移住、

開墾に従事し、約三十戸三部落を成す。其の生産する西瓜は附近に名高い。女川村の對岸は關谷村で荒川の沖積地である。山形縣小國盆地に通ずる街道で、米澤地方と古來關係が深い。今坂線の全通を見れば、北越に於ける東西の交通も開け、面目を新にする事であらう。この流域は米、藪、木炭を以て三大産物としてゐる。

今に残る大里峠の傳説

大同年間(約千百年前)の昔といふ。郷内の女川村、今の蛇喰部(じやまかべ)に忠藏といふ樵夫があつた。剛膽無敵で大の蛇住む荒川沿岸の阿古屋谷に怖ぢもせず毎日山小屋掛の獨住居で林の木を伐つて炭を焼いてゐた。忠藏の妻はト池小岡在、佐五右門の娘で名をお里といつた。お里は夫忠藏が山稼ぎの留守を不平もなく守り、至つて夫婦仲は睦しかつた。今日も忠藏は阿古屋谷で「せつせ」と斧を大木に振り込んでゐたが正午の休みに腰をおろして煙草をふかしてゐると忠藏の耳にふと斬の音が聞えた。一時不審に思つた忠藏は遂に其の斬の主が話に聞く大蛇の睡り續けてゐるのだといふ事を見つけた。忠藏はそれに驚いて逃げるやうな小膽者では無かつた。「うぬつ」と横唇をかんで立ち上り、さきすました大斧をぐさりと許り大蛇の首筋目がけて打ち込んだ。血煙の中に大蛇はのたくり打つた。其の夕、忠藏は蛇喰の我が家へ歸つたが、道がに顔色の唯ならぬを妻のお里に告められたが事の自白はしなかつた。翌日忠藏は未明に我が家を出て山の現場に行つて見た。大蛇は白鱗を陽に照して血潮の中にまぎしく死体となつて横つてゐた。忠藏は殘虐にも更に大蛇の死骸をアツリと、剛切して炭俵に詰め込み我が家に運んだ。蛇の味喰はかうして出来たのである。妻のお里はそれと聞いて驚愕した。實家では奉行娘、嫁しては良妻と評所の評判がよいだけ夫忠藏の殺生には心から反對し進言もしたが忠藏は冷やかに笑つて肯じなかつた。

總て蛇の味喰は美味であり且つ精力増進劑として好評を博し、武士が戦場の食料として砂金と換へ、農人に需要があり忠藏の家は蛇の味喰漬業に化し、一年漬二年漬三年漬の樽が幾つも並べられるやうになつた。忠藏は炭焼業をよそに蛇の眞窟阿古屋深林の蛇の種も絶さんばかりに捕り殺しては家に運んだ。或る日、妻のお里は怖ぢ心にも取扱ひに慣れた上から、心なく一切を焼いて食つたが因で十二種の味喰漬を七日間に喰ひ盡し

湯を醫するに桶の水、小川の水を呑み干し遂に荒川の大流に身を投じたのである。「忠藏さん残念です。蛇の怨恨の祟りを身に受けたのです貝附の狭門を堰止めて八ヶ谷を泥の海とする大望に阿古屋谷で一族を産み殖やしてゐるのを夫忠藏のために絶滅されたい」といふ蛇の恨みの祟りを身に受けたのです」と夫を恨めしげに覗み叫んでお里は身を深淵の中に没したのであるが其時は全くお里は大蛇の妻に化してゐた。忠藏は問もなく剃髪して諸國巡禮に旅立つて行方を消した。

それから後の事、越後生れの盲目琵琶法師の市は、京から法師の位階を授つて米澤から越後へ國境の十三峠を越す事になつた。「峠には大蛇が出て命を失ふ旅人が多いといひます。法師さん不自由な身で夜中の峠越へは危険です。夜が明けてから緩りと越しなされ」玉川の休み茶屋では親切に引止めた。藏の市は一時早く郷里に歸を飾りたい心と盲人の大膽さで親切な忠言を振り切つて今の大里峠四百八十七米を夜道に越えかゝつたのである。恰かも仲秋十五夜の月が空中に懸つて照り、トボトボ杖を頼りに頂上に辿り着いた藏の市は、路傍の石に腰をおろして息を入れた。深山の夜更けの峠は薄寒きまでに静かであつた。藏の市は琵琶袋を背からおろして、思ひ入れに一曲を弾いたのである。

「モシ〜法師さま!」鈴のやうな美しい女性の聲でだしのけに呼びかけられた藏の市はぎよつとこした。「おどろきなされたか。すみませぬ。法師さま……」女性は、なれ〜しく親しみの聲で再び呼びかけた。「もう一曲弾いて下され法師さま……」響びるが如く哀願するが如く、女性は法師の膝にもたれかゝつた。再び弾じた法師得意の秘曲は切々として月明に澄みわたる空中に冴え響いて餘韻はあたりに漂ふた。女性はシタ〜と泣いてゐた、こんどは法師から呼びかけた。「モシ〜ご婦人どうした事情でござるか、差支へなくば聞かせてもらひたい」女性は嗚咽のうちに身の上話を語り出した。

女性は彼の樵夫忠藏の妻お里の化身で此の峠を七巻半巻いてゐる大蛇だといふのである。悲しい過去の素性を打ち明け、阿古屋谷の大蛇に代つて貝附の狭門を堰止めて八ヶ谷を泥沼に化し、更に眷屬を殖やして國中を蛇の國にする陰謀が立ち、向ふ三日以内に決行する事になつてゐる。あなたは一時早く此の谷を去つて安全地帯にのがれて下され、今宵の縁にほだされて密かに知らせるのである、若し他に口外の事があれば其時限りそなたの命は絶えらうからと、固く口止めし蛇には鐵氣が大禁物である秘密までも漏らした。怪風にあたり草木が、ゆるぐと思ふまに怪女性お里の聲は間もなく消えてしまつた。藏の市は怪女性性の告白と親切さに異様の愛着を感じたが、一面重大な義憤に血がわき立つた。急いで峠を下つて關驛の宿についた。關驛では峠の大蛇退治の祈願が鎮守の明神にかけられた満願二十一日の日であり、近郷一帯からも討伐隊が着いてゐた。藏の市は早速村長の所へかけつけ、夜中峠の上の出来事全部をためらふ色もなく口外した。蛇には鐵が何よりの毒物であるといふ事までも語

り終つた。村長はこれこそ明神のお示しであるさげかりに喜んだが語り終ると同時に其のまゝ絶命し消え失せてしまつた。故郷に歸を飾らうといふ途中である事も打ち忘れ、一身を犠牲にして此の各多数の人々を救ふ事の大切な固い信念に蕨の市は易さして一身を投げ出したのである。

大蛇退治の方策は忽ち立つた。七里四方の村から鍋釜鐵瓶に至るまで鐵といふ鐵は悉く集められ村や隣の保内村の銀治屋野村で多数の鐵杭を作り時を移さず大里峠を中心に鐵杭全部が打ち込まれた。一天俄にかき曇りといふわけで、大蛇の闘死に七日七夜は八ヶ谷を震駭し靈ノ黒温泉前の大内淵が其の時の苦しみにのた打つた尾打淵で、小國街道赤柴橋の下流に岩窟の蛇穴といふがあり、大里峠から今でも蛇骨が出るさ傳へられるのである。

蕨の市は危難を未前に防止した關郷の大恩人として村社大藏神社に祭祀され、神寶に遺物の琵琶、笠、杖を藏し、祭典は峠の事件の夜仲秋一ヶ月おくれ九月十五日に今も古式に則り盛大に行はれてゐるが今から百四十年前寛政二年五月二十日に正一位の位記を授け奉り正一位大藏神社と崇め郷土人崇敬の的となつてゐる。

六、荒川下流平野地方

今坂線の分岐點坂町は、關谷、平林、金屋を扼して貨物の集散盛んである。

荒川の河口に鹽谷港がある。昔は北海道、新潟方面へ出入船舶で賑つたが、羽越線開通と共に昔の面影はない。荒川沿岸中鳥屋、金屋地方には鮎の漁獲多く、又鮭鱒も多く獲らる。

平林村の中邑平林は中世色部氏の居つた所で要害山に平林城趾がある。色部氏の地頭職時代に城廓を作つたものといふ。又金屋村の中邑金屋は近世幕府一橋家の食邑として一萬石の陣屋のあつた所である。

七、三面川上流地方

村上町は地形上、門前谷と、布部を軸とする扇狀地、關口を軸とする扇狀地の合流點に位置すると考へることが出来る、それ故村上町は是等の土地の輻軸であると同時に、是等の土地は村上町のヒンタールランド(後背地)である。村上町は三面川が作つた沖積地を後背にし、前右に瀬波港、左に岩船港を控へてゐる譯である。

村上町よりの縣道は、山邊里、小川を経て小川橋を渡り、葡萄酒系の東麓に發達した猿澤村の諸部落を通過して、早稻田を経て、此の平野最北の塩野町村に至る。塩野町村は村上より十六軒の遠隔の地であるから近郷の物資の集散地で市場も開設せられる。この地に漆山神社といふ有名な古社もあるもと、漆樹の植栽盛んで漆液の産地であつた。今は支那漆に壓倒せられて昔の如くではない。

門前川の上流門前の部落に耕雲寺がある。本尊は釋迦牟尼佛で應永元年(約百四十年前)能勝和尚の創建による。この能勝和尚は楠正成の三男なりといはれてゐる。近世寺領百五十石曹洞宗の録所として末寺百八十余寺を總べてゐた。佛殿廻廊御門等壯大であつたが近年失火して今は殆んど後かたもない。

葡萄酒系の東麓を北進する縣道と並行に古渡路より、平野の東邊に沿ふて岩澤、中原、黒田、關口を経て塩野町村に入る縣道がある。中原には開墾地があり又途中岩澤より布部に、關口より高根に通ずる里道がある。布部より三面川の本流に沿ふて上れば、約十八軒で仙郷三面部落に達す。其昔平忠盛の六男大納言頼盛の舍弟池三位光盛の一族、西海覆滅の後遁竄した所で當代は平盛房と云ひ今三十四

代であると傳へられてゐる。外界との結婚等の交渉殆んど絶つた武陵桃源の地である。現在戸數三十
二戸人口約百四十、半農半獵、半樵である。冬季十二月頃より四月中旬の融雪期迄は外部との交通は
殆んど絶たれる。

三面川の支流薦川の上流薦川は砥石の名産地で、高根の地方に鳴海金山がある。大同年間の發見に
係り豊臣秀吉時代には官業として採掘したと傳へられて居るが、其後佐渡金山の發見に依り一時中絶
となり、明治に至りて再興したが目下は休山となつてゐる。塩野町村より葡萄峠を越すと字葡萄に亞
鉛鑛山がある。亞鉛と共に鉛をも採つて居る。

- 同 1、三面川の筏を見たことがあるか、どこから下るのか
- 2、葡萄鑛山の鑛石はどんな方法で搬出され、どこで精煉されるか

八、山 北 地 方

村上町より羽越線によつて北すれば、間島驛に至る。野潟の海水浴場はこの近くで此附近一帯は天
花菜の名産地で之れを採草する海女も有名である。

越後早川の驛を過ぎると、北越の險難海府浦がある。こゝは海にせまる葡萄山系の沿海一帯の岩石
海岸地域で延長二〇數軒に亘る。此地方の臺地では僅かに蕎麥大麥の産がある。

天下の絶勝笹川流は桑川驛より寒川驛迄約十二軒の海岸の稱で、幕末の文豪頼三樹三郎は曾てこの
地に遊んで「海山の美を謂はん乎我奥の松島を観る。海山の奇を謂はん乎我羽の雄鹿を観る。其の美

と奇とを合する者は今越の海府を見る」と歎稱してゐる。併し松島の美に似て松島の美にあらず、男
鹿半島の奇に似て男鹿半島の奇に非らず、それは其附近の地質構造によつて支配されてゐる海府浦獨
特の美である火山地方に見るやうな曲線を持つ悠長な靜的の景色でなく何處迄も鋭い感じのする動的
な景色である。昭和二年九月五日名勝及天然記念物として内務大臣より指定せられたのも故ある哉で
ある。海附浦の景色を作つてゐる原因は

- 第一、黒雲母花崗岩の特殊構造
- 第二、此の附近の土地の隆起
- 第三、其の隆起後に起つた海蝕作用である



蓬萊山、二子岩、四方岩、兜岩、寶岩、
眼鏡岩、雌獅子岩、雄獅子岩等の奇景あり
蝙蝠穴、七軒鐘乳洞、鳥越洞門、無我鐘乳
洞、地藏洞等の海蝕洞穴や洞門があつて、
洞内には鐘乳石や石筍の沈澱を見ることが
出来る。

元來この地方は未だ幼年期の地貌を呈し
て居るのであるが、笹川流のやうな、中年
期の地貌を作つたといふことは、全く海蝕の
機械的破壊の威力といふことが出来、海水の運動に依つて轉々運搬される岩片の衝擊力は海蝕の能率
を高めて居る。

此の地方が上昇海岸であるといふことは、此の海岸が段丘であること、海蝕によつて生じた洞穴の床が、現在の海面より數呎上昇して居るものゝあること、又上昇海岸の特長である遠淺の海岸のあること等によつて立證される。桑川部落以南の海岸は、卓子状台地がよく發達してゐる。高距は三四十米で、それ等の台地からアイヌ式土器の出る事は、此の附近が比較的最近に上昇した事を示すものである。エビス浦が上昇海岸の特長である遠淺をなしてゐる事でこの點を伺ふことが出来る。菅川流の勝を探らんとすれば桑川驛に下車して、小舟を浮べて岩嶼の間を縫つて附近の景色を賞するがよい。

佐藤傳藏氏「菅川流れ」より



八幡山

更に羽越線を北に進めば勝木に至る。勝木川右岸川口に突出した所に、宮堅八幡宮がある。海拔百米余、地質は殆んど第三紀層で、頁岩及礫岩の互層からなり、古來よりの原始林で住民は神靈の地として尊敬し保存し來たもので森林の焼失せしこともなくして今日に及んだもののやうである。木は針潤混滑樹で寒地生的のものも相當多く、林齡平均二百年と推定せらるゝも老齡木は四百六十年以上にも達す。巨木として有名なのは、樞、アサダ等で恐らく本縣に於て最大のものであらう。

昭和三年一月三十一日内務省より天然記念物と指定せられてゐる。

眞保一輔氏の「宮堅八幡宮社説」より



針立岩

又其附近寝屋港に至る海岸に高塔の如き奇巖針立岩がある。府屋は大川の注ぐ河口を扼し、山形縣鼠ヶ関に程近く天文年間大川三郎二郎此所に居城したといふ大川城趾は府屋古館に在る。この地方農家の婦女子は、副業としてシナノキ樹皮纖維紡績をなす。勝木川の上流に黒川俣村、大川の上流に中俣村がある。いづれも山間の村落であつて炭焼が盛んに行はれ、冬期は雪深く數ヶ月の冬籠りを餘儀なくせられる地である。黒川俣村大澤には金山があるも現在は休鑛してゐる。中俣村の山熊田は昔平家の一族、合の股彌三郎といふ武人遁世の地と傳へられてゐる。

- 問
- 1、中俣村の山には、落葉松の林を見ることが出来る。なぜか
 - 2、此地方の材木はどんな方法で搬出されるか
 - 3、此地方の米の不足はどこから補ふか

九、粟生島

岩船から粟島の内浦まで、漁用を主とする定期航路が開けてゐる。その間約三十五軒である。海府浦から最も接近してゐる爲め、観光客は臨時その方面より行く事がある。

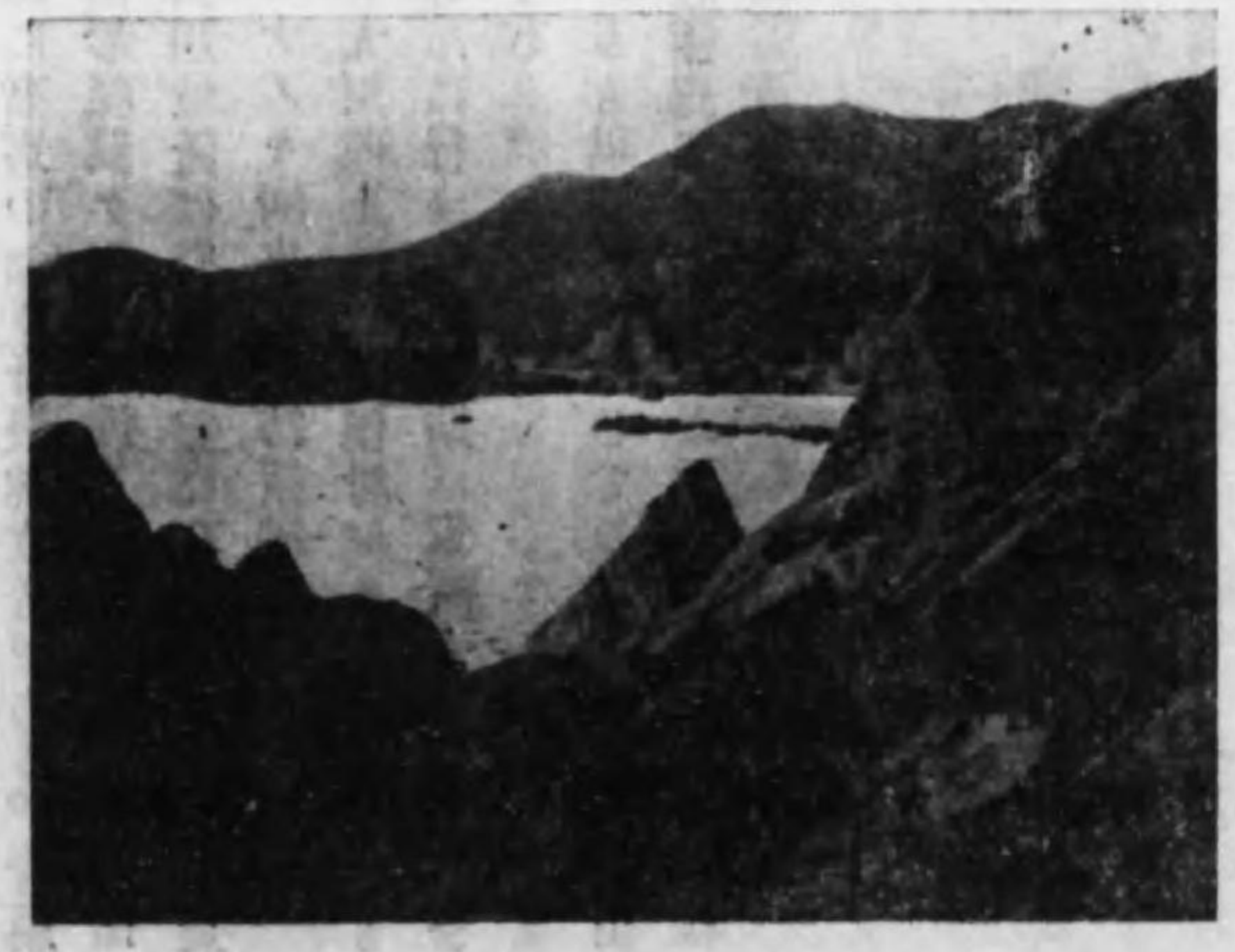
此の島は段丘の島で、三、四段または五段まで判明してゐる。最高の小柴山は二六五・三米で全島は黒色の頁岩及び玢岩から成り、後の間歇的隆起に段丘地形をなしたもので、日本海の浸蝕を受けて西岸殊に天下の奇觀を呈して居る。最近無線電信の通ずる迄、文明の惠澤を受くること少なく、孤島として現代からとり残された感があつた。こゝは暖流の影響で氣候温和で、竹もよく育つ、主業は云ふ迄もなく漁業で、鮑、海苔、海藻其他、魚介類七萬圓の年産額がある。



内 浦 辨 天

- 1、栗島に近年迄野生の馬が生存してゐたといふ事を聞いた事があるか
- 2、桑川から栗嶋迄幾軒あるか
- 3、瀨波の海岸より栗嶋をスケッチして見よ、階段状の所を見るでらう

栗 島 西 岸 具 觀 (本日地理大系)



◎表 誤 正◎

頁	行	誤	正
序	文	日本地理大系	日本地理風俗
五、一七	しかも	しかも	しかも
二、九	坂町所謂神納	所謂神納荒川	所謂神納荒川
一八、一	傳へてゐる所	傳へてゐる	傳へてゐる
一九、六	灰色頁岩で	灰色頁岩が	灰色頁岩が
一九、九	爲めある	爲めである	爲めである
一九、二	來た。臥牛山	來た臥牛山	來た臥牛山
二〇、四	民情迄	民情に至る迄	民情に至る迄
二〇、五	址	址	址
二〇、一〇	縣社と昇格	縣社に昇格	縣社に昇格
二〇、一三	三百六十年間	學んだに起つ	學んだと
二四、一三	漁獲	漁獲	漁獲
二八、四	岩船神社	石船神社	石船神社
三〇、六	大の蛇住む	大蛇の住む	大蛇の住む
三〇、一	込だん	込んだ	込んだ
三二、五	曇り	曇る	曇る
三二、一五	平林城址	平林城址	平林城址
三六、五	隆起	隆起	隆起
三八、二	隆起	隆起	隆起

昭和八年五月一日 印刷
昭和八年五月十日 發行

以印刷替謄寫

新 潟 縣 村 上 本 町
編纂兼發行者 結 城 伴 造

新 潟 縣 村 上 町
印刷所 正英舎 渡邊活版所

發行所 新潟縣立村上高等女學校

終

